

人と魚と海のネットワーク
 香川県漁連ホームページ
<http://www.jfnet.ne.jp/kagyoren/>
 E-mail:gyoren@ns.kagawa-gyoren.or.jp



JF 高松市北浜町 8 - 25
 TEL 087-825-0350
 FAX 087-851-0699
 J F 香川漁連



謹賀新年



香川県漁業協同組合連合会

代表理事長 服部 郁弘



年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、本会業務運営につきまして、格別のご協力を賜りありがとうございました。

さて、昨年の本県の漁業は、資源の減少、消費の低迷、輸入水産物の増大やデフレスパイラルの影響等による魚価の低迷・販売不振、魚類養殖における産地表示・養殖履歴の問題や海苔養殖におけるケイソウの異常増殖や低栄養塩による色落ちの問題、就業者の減少や高齢化による後継者不足等、かつてない難局に直面しています。さらに、昨年8月に本会所有の活魚運搬船「第3香川丸」の沈没事故が発生し、会員の皆様方に多大なご迷惑をおかけしました。また、ゴミや油流出による海の環境悪化、多発する海難事故等により、漁業の健全な発展への影響や漁村地域の活力の低下が懸念されます。

そうした中で、魚屋さんの店頭でバックミュージックとして流されていた「おさかな天国」がCD化され、子供たちの間で大ヒットとなったことは魚食普及への明るい話題でした。また、平成14年度からサワラが国の資源回復計画の対象魚種に取り上げられ、休漁時期や網目規制が瀬戸内海全体で統一化になりましたが、これは、これまで全国に先がけて本県サワラ漁業者並びに関係機関による種苗放流や秋漁の全面休漁に取り組んだ地道な努力の賜物であり、今後サワラ資源が早期に増えることを期待するものであります。

また、漁協の合併は着実に前進し、平成13年度は3件7漁協が合併、平成14年度はこれまでに3

件9漁協が合併し、県下の沿海地区出資漁協数は43となりました。さらに、現在2件4漁協が協議を進めております。

県漁連といたしましては、本県水産業が抱える諸問題を克服し、将来に向けて安定的に発展させていくために、環境にやさしい漁業を念頭に置き、養殖業の積極的展開と、栽培漁業と資源管理型漁業の有機的な連携、新たな流通システムの構築等により「つくり育てて売る漁業」を推進し、漁業者の積極的な取り組みを背景とした「地域に根ざした活力ある香川型漁業」を確立することが急務であると考えております。また、漁業生産の源である豊かな海の環境保全について、海は県民共有の財産との認識の下に県民あげての運動として取り組むとともに、海難事故の防止や漁業と海洋性レクリエーションとの共存をめざす海面利用の適正化に取り組む必要があります。漁業基盤の強化を推進し、担い手の確保や都市住民との交流などに取り組み、活力と魅力ある漁村づくりを進めていくことも今後の重要な課題です。

本年も、厳しい経営環境が予想されるなか、会員・所属員の経済的、社会的地位の一層の向上を目指して、特に本県水産業の発展のために魚価安定と加工・販売対策の推進、資源管理組織の機能強化と低コスト型漁業への転換、漁協の合併・事業統合の計画的推進に取り組んで参る所存でありますので、会員各位をはじめ関係者諸賢におかれましては、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

最後に、皆様方の限りないご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶と致します。



香川県かん水養殖漁業協同組合

代表理事組合長 嶋野 勝路



新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

水産業を取り巻く環境は、日本経済の不況と相俟って、年を追うごとに情勢が厳しくなっていますが、新しく迎えました平成 15

年が県内漁業にとりまして、明るい希望にみちた年でありますように心からお祈りいたします。

顧みますと、昨年のかん水養殖業は平成 12 年度の無秩序な輸入カンパチの増大から、危惧していた通り、昨年夏まで出荷がズレこみ端境期もなく供給がなされ、輸入サ・モンとの競合、産地間競争の激化とデフレ要因における価格の安値安定と悪条件が重なり、全国的にハマチの需要が激減しており依然として厳しい状況が続いている中、斯かる状況を鑑みプ・ル精算方式を導入して、県漁連と連携をとり鋭意、拡販に取り組んでいる次第です。

就中、組合員の経営悪化に伴い、緊急要望として、関係水産団体一丸となり、産地間競争力強化資金の創設を県に陳情して参ったところであります。

更に、消費者の食の安心・安全の意識が高まる中、他県にさきがけて養殖魚の生産履歴を作成して、食の安全性はもとより、安心の確保に向けた生産者の顔を見せるシステム構築に努めて参りました。

特に、水産物では多岐にわたる水産物の流通特性を踏まえたトレサビリティ（情報提供）の導入は、販売促進に不可欠となっております喫緊の課題として取り組む所存です。

本年度におきましても厳しい環境は、一朝一夕には改善されませんが組合員皆様が現状認識を弁え、漁場に見合った、販売計画に沿った適正放養尾数を遵守して、養殖業本来の使命である安定生産・安定価格・安定供給の重要性を再認識いたすと共に、食料産業を担う養殖業として更なる研鑽を積み、この多難な時期を乗り越えていこうではありませんか。

最後に、かん水養殖漁業の発展と前浜の活力と笑顔が戻るよう精一杯、努力して参る所存ですので、尚一層のご尽力を組合員皆様に申し上げまして年頭のご挨拶といたします。

香川県海苔養殖研究会

会長 柳生 忠



新年明けましておめでとうございます。

謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、海苔生産漁家の皆様のご多幸とご健勝をご祈念申し上げます。

顧みますと、一昨年

の狂牛病問題の発生以来、食品業界には牛肉、鶏肉、野菜、カキ、シジミ等の偽装表示等々、消費者の信頼を裏切る不祥事が相次ぎ、消費者からの食品に対する安全・安心への要求は一段と厳しくなっており、そうした動きに、農林水産省は平成 14 年 7 月に品質表示基準に違反した場合の罰則強化等の JAS 法の一部改正をおこなった他、魚介類の表示名称のル・ル化、また、厚生労働省と共同で「品質保持期限」と「賞味期限」の用語統一、加工定義などの整理の検討を始めております。

この一連の動きを他山の石と思わず、食品業界の一翼を担う我々海苔生産者も品質表示問題を真摯に受け止め、消費者から更なる信頼を勝ち取るよう海苔品質の向上を図っていかなければなりません。消費者からは、生産者の顔がみえる安心・安全な食品を求める要求が一層強まり、海苔商社は品質の安定した、安心して買える浜の選別買に走る傾向に一段と進むことが予想されます。香川県海苔養殖研究会と致しましては、この産地間競争に打ち勝ち、商社が業務用は香川県産乾海苔が一番だとの評価にみあった品質と価格を獲得できるよう香川県漁連、会員各位との連携を図りながら努力してまいります。しかし、平成 14 年度海苔養殖は過去に例のない極端な低栄養塩の中で始まったことで品質が悪く、初入札価格としては香川県漁連共販史上の最安値スタートとなりましたが、今後の栄養塩の回復に期待し頑張っていたきたい。

最後に、当研究会の会員、技術部員並びに海苔関係者の方々の今後とも変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。



社団法人 香川県水産振興協会

会 長 服 部 郁 弘

新年明けましておめでとうございます。

新春を迎え謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

本協会は、平成 14 年 4 月 1 日に、県レベルの 5 団体が統合し発足いたしました。会員をはじめ関係者皆様の格別のご支援ご指導を賜り、計画に添った業務運営ができていますことを厚くお礼申し上げます。

さて、本県水産業を取り巻く環境は、漁業就業者の減少・高齢化に加えて資源の減少、さらには長引く不況による消費の停滞等で魚価安が続いており、漁家経営は年々厳しさを増していますが、日本経済は依然として先行き不透明で早期の景気回復が望めない状況下にあります。

このような中、本協会は、統合しました団体の業務及び香川県漁連が昭和 61 年から実施してきました大型種苗の放流事業を継承し、栽培漁業の推進等に関する事業、漁業操業の安全確保に関する事業を行うことにより、漁業生産の増大及び漁業者の福祉の増進を図り、もって水産業の振興に寄与することを目的に事業を推進しています。

特に、本協会の中核事業である栽培漁業の充実化を図るため、栽培漁業分科会の設置、漁場環境保全事業の海浜清掃に加えて海面清掃への支援、県産水産物の流通消費対策事業の県内県外での普及活動や新魚種養殖試験等に取り組んでいます。

しかし、就業者対策として操業安全対策事業を推進する中で、昨年操業中の漁業者の海中転落事故や設備機器の巻き込まれ事故が頻繁しましたことは誠に遺憾であり、また、本県海域で船舶の衝突・座礁・沈没事故が続発するなど、漁場環境や操業に大きく影響を与える憂慮すべき事態も起きています。

発足 2 年目の平成 15 年度は、漁船漁業の経営向上安定化を図るための放流事業、漁場環境保全事業並びに漁業操業安全対策事業を中心に積極的な事業展開を推進する所存でありますので、会員をはじめ関係者各位には、より一層のご協力をお願い申し上げます。

最後に、平成 15 年度が本県水産業にとって明るい年となると共に皆様方のご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



香川県無線漁業協同組合

代表理事組合長 服 部 郁 弘

新年明けましておめでとうございます。平成 15 年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、当組合の運営につきまして、多大のご協力とご支援を賜りましたことを心から感謝申し上げます。本年も、漁業無線の維持発展のために、より一層の深いご理解とご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

さて、高松海上保安部が集計した、昨年初頭から 11 月末までの間における香川県海域での、海難事故発生隻数は 111 隻あり、その内 29 隻が漁船によるもので、操業中漁具に巻き込まれたり、海中に転落したりする不慮の人身事故が発生しています。従いまして、漁業者が自身の身を守るために救命胴衣を着用されるとともに、緊急時における最も確実な通信手段として、漁業無線を十分に活用されることを望む次第です。

昨今の通信技術の進歩は目覚しく、携帯電話をはじめとする様々な通信インフラが急速に整備されつつあります。しかしながら、当組合としては、海上で操業する漁船と陸上との通信基盤としての漁業無線は、漁業者の安全確保に加えて漁業経営の安定化・効率化の観点からも、重要な役割を担っていると認識し、地道な努力を続ける所存でございます。つきましては、格段のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

終わりに、組合員並びに系統関係者の皆様方のご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶と致します。

主な行事予定 (1/4~1/31)

- 1 月 4 日(土) 仕事始め
- 5 日(日) 新年初市祈願祭 (高松市中央卸売市場)
- 10 日(金) 第 4 回のり共販
- 26 日(日) 第 5 回のり共販
- 31 日(金) 税務申告説明会